

各組合・地域労連・各団体 御中

青森県労働組合総連合

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

3/29 福島の報告 「原発事故のため、遺体の捜索にも確認にも行けない」…福島県民の怒りと悲しみ

本日30日第8弾は宮古市へ！

福島県労連の事務局長からいただいたコメントを以下にご紹介します。

「福島県で、最も被害が大きかったのは、太平洋沿岸の浜通り地方です。しかし原発事故の関係もあり、まったく行くことができないように思われている方も少なくありません。ですが、いわゆる20キロメートルの退避地域、20～30キロメートルの自主避難地域からはずれている地域（浜通りの北の方の自治体です）は行くことが可能で、支援を待っているみなさんがたくさんいます。私たちは3月27日にそこに支援物資をもっていきました。相馬市・松川浦は、潮干狩りや海水浴ができる場所ですが、無残のひとことです。どこまでも瓦礫が続く、途方もないものです。

JR新地町駅はテレビなどでも報道されたようです。「く」の字に曲がった列車です。南相馬市・ヨッシーランドは、お年寄りの施設です。残念ながら30人をこえる入所者の方が亡くなってしまいました。ここには全国一般の組合員が1人いて、九死に一生を得た話を聞きました。普段は施設から海など見えないのに、地震直後には空まで波が届くのではないかとというぐらい大きな津波がやってきた。お年寄りといっしょに逃げている時に、津波にのみこまれたが、近くにベッドがあり、それにしがみついて助かることができたという話でした。

被災現場は想像を絶するもので、表現する言葉が見当たらないというのが、率直な思いです。でもそこで、がんばっている人たちがいる、この人たちを支えていくのが私たちの役割だと、あらためて痛感しました。また、避難を命じられている原発から20キロメートル圏内にも、当然多くの津波による犠牲者がいるわけですが、「原発事故のため、遺体の捜索にも確認にも行けない」という話を直接聞きました。原発事故は人間らしく人生の最後を迎えることさえも奪っている点でも絶対に許されない問題だとつよい怒りを感じました。」（福島県労連事務局長・野木）



JR新地町駅



南相馬市ヨッシーランド



福島県労連議長・事務局長も奮闘中